

### 『しんどいから、また次・・・』 愛宕山に登って



京都の市街地から北方の山並みを望むと左右にひときわ高い山があい対峙しています。右手には最澄をはじめ法然、親鸞などの仏教者を生み出した「比叡山」が、左手には火伏せの神を祀り民衆に親しみの深い「愛宕山」が聳えています。

愛宕山は天応元年(781)、慶俊僧都が鷹ヶ峰の阿多古社を山上に移して愛宕権現と称するようになったものであり、また早くから真言密教の行場の山として多くの修験者を集めてきたそうです。

火難や盗難の災いを都に入れない塞神の役割を果たしていたものが、仏教と習合して平安時代に愛宕山には白雲寺という密教系の寺院が建立され、以後この寺院が愛宕山の実権を握ってきたといわれています。白雲寺には本地仏として勝軍地蔵が祀られました。勝軍地蔵を尊崇する者は戦で勝利を得るといわれ、特に明智光秀や伊達正宗などの戦国武将たちにその信仰が広まりました。

明智光秀が、本能寺で主君の織田信長を討つ直前に愛宕山に籠り、連歌会を催したことはよく知られています。現在の愛宕神社となったのは、ずっと後の慶応4年(1868)の神仏分離によるものだそうです。

愛宕山は全国に火伏せの神として愛宕信仰を広めており、伊弉冉尊(いざなみのみこと)・迦具槌之神(かぐつちのかみ)など記紀神話において火の神誕生に登場する神々をお祀りされています。そして各地にも愛宕講として、「阿多古祀火迺要慎」と書かれた愛宕神社の「火の用心」のお札を授かる為の代参が行われたりしていますし、我が家もそうですが京都の民家やお店の台所など火を扱う所には大概この「火迺要慎」が貼られています。

右下の画像は、私の町内にある愛宕講を行うための持ち回りの火入れと、ろうそくを入れる灯籠とお札の入っている石祠です。

その京都嵐山の北にある愛宕山登山&愛宕神社に風薫る季節、4月26日に参拝登山を実施しました。



われわれの集合場所である清滝口には、続々と到着するバスから登山者たちが降りてきます。程なく全員集まりいざ出発です。

愛宕山は、麓の清滝口から2時間半位で登れる山ですが、ほとんどが石段になっていて運動不足の肥満体(私+1名)にはかなり厳しい山です。

登山道には100mごとの案内標識を地元の消防団が設置してくれているので登る時の目安になります。頂上迄4kmありますので40か所の距離案内が設置されており「1/40」からスタートします。

案内板があると目安になって登りやすいように思いますが逆に最初がなかなかカツイ勾配になっているので、このしんどさが40

倍続くのかと初めは嘆いてしまいます。

しかし、最初の厳しさを乗り切り少しずつ階段道にも慣れてくると、自分の歩幅を考えたり足の置き場所を考えたりと自分のペースで歩くことができるようになってきます。初めのうちは元気に喋っていましたが、時間が経つにつれ皆だんだん下を向いて黙々と登っていました。

「20/40」の標識あたりになると平坦な場所や眺めの良いところもあり、しんどさにも慣れてきたのかお喋りする余裕も出てきました。気がつくのとあと数百メートルの所までになり、生気を失いかけていた皆の目が完走間近のマラソンランナーの目に変化していきます。

ようやく「40/40」の標識が見えて皆大歓声でした。桜もまだ満開に近い状態で咲いており、今迄の苦勞をねぎらってくれます。

幼児を連れた家族連れとも何組も出会いましたが、愛宕山には三歳までに登らせると、一生火事に遭わないという言い伝えがあります。また、千日詣とって7月31日の夜間に登れば千回登ったご利益があるといわれ、登山道には照明が点けられ行列ができるほどの程の賑わいをみせるそうです。

頂上の休憩所で水分補給して愛宕神社の方へ向かうと勢い勇んで出発するとまた階段が…。その時、皆の顔には『また階段かよ〜』という思いがありありと出ていました。その階段をなんとかかかんとか登りきり本殿に到着し目標達成です。

火の用心のお願いをしてから神社下の広場で楽しくランチタイム、帰りは楽しくしゃべりながらの下山で、次はどこへ登ろうか・・・などと余裕の会話も生まれました。

次回の登山企画を是非楽しみにお待ちください。

(記・五代 晋一)



大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14  
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>  
blog <http://oisblog.exblog.jp>  
E-mail [ois@jp-interior.or.jp](mailto:ois@jp-interior.or.jp)

発行人：河野  
編集人：田原(第3事業部長)  
スタッフ：瀬部・石渡・山田  
朝日・加茂・今井  
五代(第1事業部長)  
事務局：岡崎・奥田

## 世代の融合 No.98



### 新年度を迎えて

会長・河野 洋二



建築業界は良くも悪くも東京中心にオリンピックネタで活気づいているように思います。

新国立競技場の屋根はどうなりますことやら、木久扇さんに言わせれば「や〜ネ！」というところでしょうか。

わが大阪府インテリア設計士協会は、本年度も青年部を中心に色々なイベントを企画して皆さんとの接点を設けてまいります。これまで参加をためらっていた人も、協会から発信されるイベントに注目して気軽に参加してみてください。素晴らしい技術、経験を持った先輩がやさしくフォローしてくれ

ますよ。まずは一人ひとりが建築インテリア業界に新たな目標をもって一歩踏み出して行動をしましょう。出しゃばりを大いに歓迎します。

以上、若い人向けのメッセージになってしまいましたが、中堅層、シニア世代の方々も今まで以上に元気を出して、世代の融合により、OISを盛り上げていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

### 平成27年度総会報告

OISの平成27年度総会は4月24日、難波OCAT・難波市民学習センター第2研修室で行われた。26年度の事業報告・決算報告、27年度の事業計画案・予算案などを審議し、すべて原案どおり可決した。

インテリア設計士資格検定試験の受験者数の減少により財政的に苦しい状況は続いているが、「忘年会」「新年会」の参加者は増加、またそのほかの恒例行事も確実に実施できたことは、一定の評価に値し、来期につなげる1年であったと報告された。

また、今年は役員改選の年で、理事会で内定された改選案が提示され可決承認された。役員人事に大きな変更はないが、副会長・常任理事に50代、40代の若手を登用、また65歳以上で構成する「かぶだちの会」も活動を再開させ、元気を取り戻す予定である。

総会後の交流会はOCAT5階・スーパードライで実施された。



交流会結めの挨拶/榊二加屋 杉本社長

インテリア設計士検定説明会を実施  
検定事業部会では学校の先生方を対象とした試験対策説明会を、5月28日(木)に大阪デザインセンター「SEMBA」で実施した。  
4校5人の参加者に対し、事前発表された実技課題を中心に、「作図ポイント」の説明などを行った。  
今年度の第55回インテリア設計士資格検定試験は7月11~12日に中央工学校OSAKAで実施される。

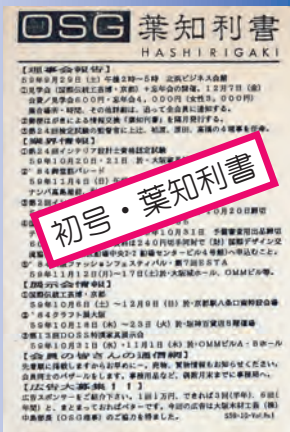
### ◆ 今後の予定 ◆

- ★6月27日(土)TABE-YOZE・・・『どこでも本格中華』出張ショフの自宅で開催
- ★7月11・12日(土・日)第55回インテリア設計士資格検定試験
- ★7月31日(金)ビアパーティー・・・場所未定
- ★9月 5日(土)MANA-BOZE・・・(仮題) インテリアの仕事とは? 講師：疋田友一

### 「葉知利書」100号に向けて記事募集のお知らせ!

「HASHIRIGAKI=葉知利書」は昭和59年('84)10月、当時の会長・平井進氏の提案で発行を開始した。当初は「ハガキ1枚」で、文字どおり「走り書き」する程度のものであったため、モジって「葉知利書」と名付けられました。その葉知利書が年明け2月発行予定分で記念すべき100号を迎えます。会員の皆さんのOISに対する思い出、仕事・趣味の話なども掲載したいと考えていますので、ぜひ、事務局まで原稿を送ってください。

◆募集要項 文字数：400字~600字+内容についての画像・写真を2~3枚  
締切：12月22日(メールでの送付も可能)





### SJIT 本部総会、足田体制続投！！



5月23日(土)、ホテル日航姫路でSJIT本部総会が開催され、全国から総勢65名が一堂に会しました。あれ？姫路。昨年度の本部総会報告記事も書かせていただき、その最後に「来年は金沢で集ましよう！」と書いておりましたが、なんと北陸新幹線特需で金沢市内の会場が押さえられないことが早々に判明し、変更となったのです。

今回は新しい試みとして総会前に講演会が行われ、コイズミ照明による「LED照明の現状と賢い使用方法」と題して、わかりやすいビジュアル資料をもとに45分間の解説がなされました。

総会議事は事業報告書や予算・決算の承認に加え、役員の変更では足田会長の再任などが決り、また定款の一部改正が上程されましたが、滞りなく進み、懇親会へと移りました。

和太鼓集団「鯨」による勇壮な太鼓と民謡によるオープニングは、広い宴会場だけでなく我々の空きっ腹もドンドンと刺激しました。さらには、姫路支部副会長石田さんのチョイスによる数々の地元銘酒が会場前方に並べられ、視覚も刺激されてかなりの興奮状態に(ちなみに総会記念品は石田さんがラベルデザインをされたお酒でした)。演奏が終わる前にフライングで飛びついてしまったのは私だけではなく、存分に美酒を楽しませていただきました。



翌24日(日)、天気予報の雨予想を見事にひっくり返し朝から快晴に。午前9時、開場と同時に姫路城天守閣を見学しました。姫路支部の方々がいろいろと手続きをして下さった



### 「かぶだちの会」久しぶりに開催

「かぶだちの会」は、発起人で二代目会長だった筒井さんが長期にわたる病氣療養後、昨年6月9日に他界された(本紙No. 95既報)関係もあり長らく開催されていなかったが、再起をかけて5月30日に「パノラマスカイレストラン アサヒ」(IMPビル26階)で開催された。

かぶだちの会会員は現在36人、現役員とのコラボのかたちをとったが参加したのは10人(事務局を含む)で肩透かし状態で

あった。しかし、土曜日の午後1時スタートで、誰にも遠慮することもなく飲めるアルコールが五臓六腑に染み渡り全員上機嫌、時間の経つのも忘れ会話が弾んだ。話の中には、今後のOISの運営に関し、年配者、現役員、青年部など垣根を越えた協力が必要であろうとの意見が多く聞かれた。

なお、筒井会長の後任には、元会長で現顧問の宮後浩氏の就任が決まった。(記・奥田 忠彦)



かぶだちの会、戦い(飲み)終えて・・・



おかげでスムーズに入城することができましたが、我々が見学を終えて天守閣を後にする頃には天守閣内1時間待ち、門前1時間待ちの長蛇の列ができていました。

昼食後、まず姫路市林田にある兵庫県指定重要有形文化財「林田大庄屋旧三木家住宅」に行きました。全般説明のあと少人数に分かれて、それぞれに案内ボランティアの丁寧で温かみのある説明を聴きながら見学しました。



旧三木家住宅



永富家住宅

続いて、たつの市揖保川町にある国の重要文化財「永富家」に行きました。非常に豪壮な建物で、玄關土間から見上げる梁は見たこともないような立派なものでした。別敷地の庭園ではたくさんの花菖蒲が咲き、空には燕が飛び交い、初夏の素敵な屋下りのひとときを楽しめました。

16時過ぎJR姫路駅にて予定より若干早い解散となり、三々五々帰途についたり、さらに、ちょっと飲みに行ったりと・・・。

来年こそは石川でSJIT本部総会開催です。今回同様、さまざまな趣向が凝らされた行事が行われますので、今から楽しみにしています。(記・瀬部 明)



### スケールに圧倒・先人の知恵に脱帽

知恩院・国宝御影堂平成大修理現場見学会

石畳にはまだ少し昨夜の雪が残る寒さの京都でしたが、大変貴重な見学会に参加することができ感謝しております。

2月1日(日)の午後、国宝である知恩院御影堂(みえいどう)の修理現場に11名が参加しました。御影堂は知恩院の中でも最も大きな建物で(平面45×35m)、その雄大なたたずまいから大殿とも呼ばれ、江戸初期から浄土宗を開いた法然上人の御影をお祀り



してきたお堂です。平成23年から8年間に及ぶ大修理を行っており、平成31年に完成予定です。屋根瓦を全て降ろすため、御影堂をすっぽりと囲う大きな鉄骨大素屋根が造られています。この仮設大建築も、国宝建物の上での作業が禁止されているため、部分的に組み立てた屋根をスライドさせながら覆っていくという現代建築技術の粋を集めたものといえます。

早速、鉄骨階段を一気に4階まで上がると、眼前にダイナミックな屋根の骨組み(小屋組)が現れ、いきなり圧倒されました。荒々しい、それでいて繊細な美が瓦の下に隠されていたのです。特に桔木(はねぎ)と呼ばれる日本建築独自の工夫に目をこらしました。深い軒先が瓦の重量で下らない

ように、椀子(てこ)の原理を利用した構造材です。日本建築の優雅さは、外部からは見えない先人の知恵によって保たれているわけです。

法然上人が教祖になられたのは父・時国公の遺言の教えによるとされていますが、その父の遺言は次のようなものでした。

「恨みをはらすのに恨みをもってするならば、人の世の恨みのなくなることはない。恨みを越えた広い心を持って、すべての人が幸せになる道を歩むことだ。」



まだまだ寒さ厳しい2月27日(金)、コラムデザインセンターで開催されたMANA-BOZE「コルクボードアレンジ」に、OISの古くからの会員で私の元上司に誘われて、会員でもない私ですが参加しました。参加者は私ら2人とOIS青年部メンバーをはじめ中央工学校の学生さん達でしたが、アウェイ感を全く感じないとも暖かく和やかな雰囲気でした。

事前に試作されたサンプルを参考に、用意された生地や金具、造花などのアイテムをアレンジして取り付けオリジナル「コルクボード」を作りました。全体のイメージを構成しながらディテールの接着方法や納め方、制限された素材でどのように機能的に表現していくか、ある意味建築的な思考を重ねながら組み立てていく作業になりました。予想以上に熱中し無言になりながらの作業、途中からやや急ぎ足で完成まで促され、ふと顔を上げて皆さんの作品を拝見しますと、同じようなアイテムを使用しているにもかかわらずそれぞれに独特の雰囲気や工夫があり、作者の人柄と作品のギャップも見受けられ、とても興味深く楽しいなか、次なるメインテーマである懇親会へ突入しました。

それまでの制作ルームは手際よく宴会場に様変わりし、自己紹介とこのMANA-BOZEをはじめとするOISの活動についてお話いただきました。各々の仕事のためというより、自己啓発とお互いへのポジティブな



↑筆者の作品→

2月27日に開催された青年部主催の「ちょっとMANA-BOZE “コルクボードアレンジ”」に参加しました。講師の方、青年部の方々、お洒落で楽しい一夜をありがとうございました。

DIYという日曜大工という印象が強いのですが、言葉を調べてみますと、「専門外のもを自身で作ったり修繕したりすること、Do It Yourself (ドゥ イット ユアセルフ) の略語で「自身でやるう」の意味でした。まさに物作りの楽しさを味わうことですね。

今回のコルクボードアレンジは、素材はローコスト、でも出来上がった皆さんの心のこもった作品も、参加者の心の繋がりもハイエンドでした。

私が嬉しかったことの一つは、OISの会員でもない職場時代の友の参加を快く了解していただけたことです。これからもOISの催事を通じて、より心の繋がりが広がることを期待しています。タイミングが合う限り積極的に参加しましょう。(記・渡辺 廣史)



制作中の正木さんと渡辺さん